

第 31 回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会

温井ダム定期報告書の総括

○「第 31 回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会」において、「温井ダム定期報告書」の審議を行った。

○審議は、「防災操作、利水補給、堆砂、水質、生物、水源地域動態」の 6 項目について、平成 28 年度から令和元年度までの期間を主な対象として行った。
各項目に関する審議結果は以下の通りである。

1. 「防災操作」

評価期間である平成 28 年度～令和元年度の間、計 2 回の洪水が発生し、必要な操作を行い、所期の機能を発揮している。今後も気候変動の影響によって、豪雨の頻発・激甚化が懸念されており、ダムの効果を最大限発揮できるよう、引き続き事前放流や特別防災操作などを含む防災操作を行われたい。

2. 「利水補給」

所期の機能を発揮し、受益地に貢献している。今後もダムを適切に管理・運用し、ダム下流域への利水補給を行われたい。

3. 「堆砂」

管理上の問題は生じていない。今後も適切な方法により測量等を継続して実施し、堆砂状況を把握されたい。

4. 「水質」

利水上の影響は生じていないが底層の貧酸素化に伴いマンガンが上昇する場合があります。今後進行する可能性も考えられる。これらを考慮し、ダムの管理・運用に必要な水質や底質の調査を継続するとともに、巡視などの日常管理を通じて水質状況の把握に継続的に取り組まれたい。

また、ダム湖の水温の状況についても必要な解析や確認を実施し、注視されたい。加えて、一部の水質調査地点については精度向上のために必要な調査内容について検討し、適宜調査を実施されたい。

5. 「生物」

生物の生息・生育環境に大きな変化は見られていないが、今後も調査を継続し生物の生息・生育状況の把握に努められたい。

また、保全対策については、河川水辺の国勢調査等の調査に加え、日常的な維持管理を通じて効果の継続的な発現に取り組まれたい。

加えて、ダム下流環境改善の取り組みについては、より効果が発揮出来るように必要な調査等を実施されたい。

6. 「水源地域動態」

温井ダムが果たす治水や利水の役割について、ダム下流地域への貢献状況を地域に理解されるような「ダム管理の見える化」を促進されたい。

ダムを活用した水源地域活性化の取り組みは地域や各種団体とダムとが協力し、地域活性化に貢献しているが、担い手の負担と地域への貢献とのバランス等について課題があると考えられる。

このため既存制度の活用や新たなスキーム構築により、地域活性化活動の展開や具体化の検討を推進されたい。

以上